

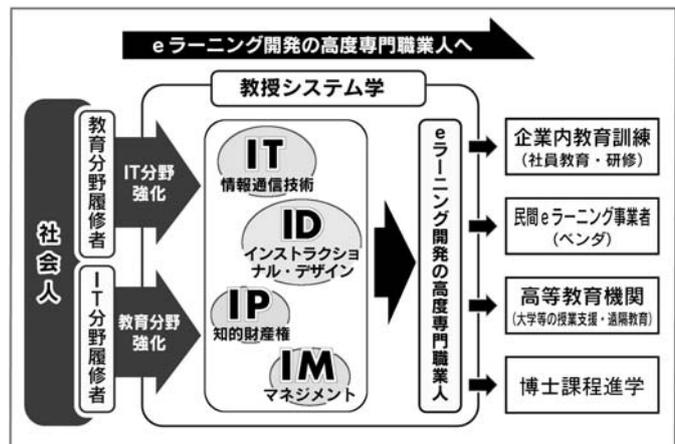
教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	熊本大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	IT時代の教育イノベーター育成プログラム (グローバル人材育成を主導できるeラーニング専門家の養成)		
主たる研究科・専攻名	社会文化科学研究科教授システム学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 鈴木 克明		

[教育プログラムの概要]

<本専攻の課程>

教授システム学専攻は、教育設計学（インストラクショナルデザイン）を中核とし、情報技術、マネジメント、知的財産権から構成される教授システム学の体系的な教育研究により、eラーニング推進を担う高度専門職業人等を育成すべく、平成18年4月に開設され、志願者37名から選抜された15名の第1期生に22名の科目等履修生も加えてスタートした。eラーニング専門家をeラーニングにより養成する日本初の大学院であり、各地の社会人学生等が第1・2期生として学んでいる。本専攻は、以下の通り、大学院設置基準改正の趣旨を既に体现しており、大学院教育実質化の先進事例を目指している。



(右図：本専攻の概念図を示す)

1) 修了者像に基づく課程設計：人材養成目的に即した体系的カリキュラム編成

修了者が備えるべき職務遂行能力（コンピテンシー）をウェブ上で公表（註1）し、教育目標の達成責任を内外に明らかにした。体系的な教育課程の編成に向けて、各科目の先修要件を定めるとともに、各科目の単位取得条件となる課題群を職務遂行能力と直接的関連を持たせて設定するなど、自らの教育課程編成に教育設計学の手法を活用している。いわば出口（修了者像）から遡って課程全体を体系的に設計している。（註1 <http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>）

2) 課程修了と業界団体認定資格との連動：産学連携による人材需要への適合性確保

職務遂行能力や教育内容の設定に当たっては、eラーニング業界の求める人材を輩出するため、特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアムと連携し、同コンソシアムが策定中の「eラーニングプロフェッショナル資格認定制度」に関し、修了と同時に取得できるように配慮している。

3) 集団的討議・点検による教育の質保証：徒弟制的教育とは対極の組織的教育

教育の質保証のため、教員・授業補助者・教材作成者が一堂に会し教育内容の相互点検等を行うレビュー会を定例化するとともに、集団的討議に基づくガイドラインに沿ったシラバス、明確な成績評価基準等を実現し、FD及び自己点検・評価のメカニズムを教育実施体制の中に内蔵している。

<新たな取組>

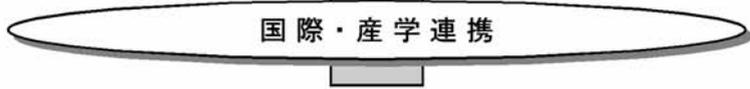
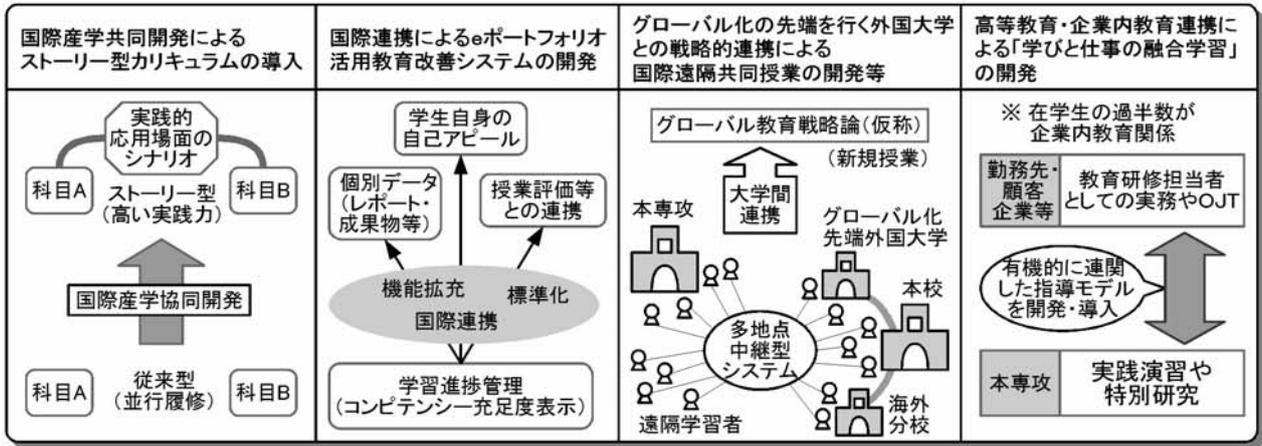
上述の実績の上に立って、グローバル化する知識社会の教育イノベーションに貢献できるよう、本専攻は、人材育成における国際連携・産学連携を主導できるeラーニング専門家を養成するため、新たに以下の取組を行う。空間的・時間的制約を取り払い、国境を超え、大学・企業等の境界を超える、eラーニングの特色を活かして、国際連携・産学連携の中で、教育内容・方法や教育改善システムを一層高度化した先端的教育システムを開発・導入し、大学院教育の実質化を更に推進する。

- 1) 国際産学共同開発によるストーリー型カリキュラムの導入
- 2) 国際連携によるeポートフォリオ活用教育改善システムの開発
- 3) グローバル化の先端を行く外国大学との戦略的連携による国際遠隔共同授業の開発等
- 4) 高等教育・企業内教育連携による「学びと仕事の融合学習」の開発

熊本大学:IT時代の教育イノベーター育成プログラム

履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

修了者像に基づく課程と質保証 + 国際・産学連携eラーニング = グローバル人材育成



人材養成目的に即した体系的カリキュラム編成 (以下は実現済み)

修了者像(出口) eラーニング専門家

修了者が備えるべき職務遂行能力(コンピテンシー)の設定と公開

◆ コア ◆

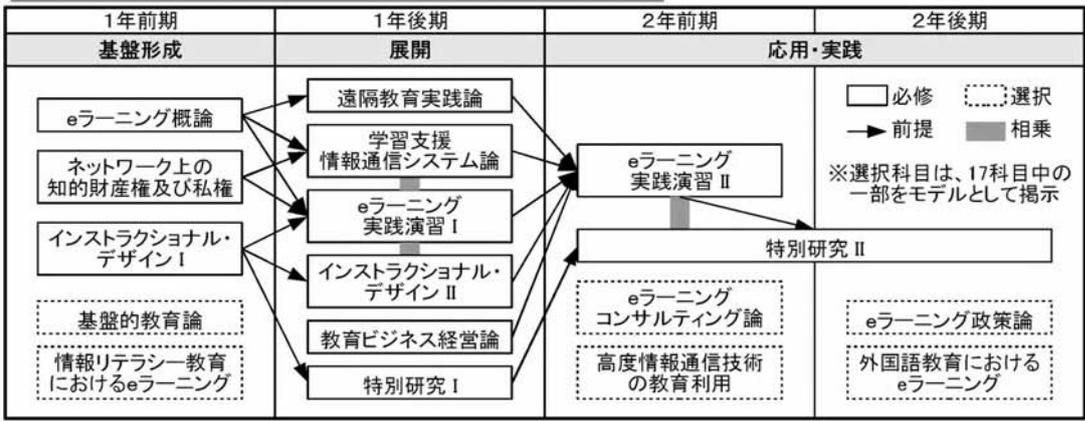
必修科目の単位を取得することで身につくコンピテンシー

科目内の学習課題

1. 教育・研修の現状を分析し、教授システム学の基礎的知見に照らし合わせて課題を抽出できる。	e-概論 ID-I 基礎教 基礎教 遠隔教 情報技 教育心 リテラシー
2. さまざまな分野・領域におけるさまざまな形のeラーニング成功事例や失敗事例を紹介・解説できる。	e-概論 ID-II 基礎教 遠隔教 演習I 情報技 教育心 外国語

※ 学生自身がコンピテンシーの充足状況を随時確認可能 (学習進度に従った更新)

コンピテンシーを体系的に具現化したカリキュラム(履修モデル例)



教育の組織的質保証と手厚い学習者支援

- 15回の授業すべてにインタラクションを確保
- 課題の締切、提出状況、可否等を学生自身が随時確認可能(右図)
- 定例レビュー会による教育内容の相互点検
- ガイドラインの制定とそれに沿ったシラバス・成績評価基準(公開)
- 修了時、業界標準資格を取得可能

2006年度前期受講科目

2006年7月24日 10:33:04現在 MyWebCT^

科目名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
eラーニング概論	タスク	pass	pass	受付中											
インストラクショナル・デザインⅠ	タスク	pass													

現在受付中で、2006年8月1日00:00がバッチです。あと7日

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、e-learningの技術面での教育という新しい人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿ったカリキュラム構成や教員組織など、体系的な教育課程が編成され、その展開のための充実した指導体制が整備されている点は高く評価できる。

教育プログラムについては、e-learning教育の特色を活かした教育方法、教育プロセスの管理、教育評価の仕組みについて入念に計画されている点が高く評価でき、その実現性、実効性も期待できる。ただし、留学生に対する英語教育の充実、基礎となる専門的知識の教育、e-learningの限界への対応などについて更なる検討が望まれる。